

ランチョンセミナー 29 [LS29]

日時：2026年4月11日(土) 11:50~12:50

会場：Room 8 展示室 東 (マリンメッセ福岡B館)

4月11日(土)

第130回 日本眼科学会総会 ランチョンセミナー29

次世代のロングチューブ

世界と日本における最新臨床データとエキスパートの知見

日時 | 4.11 sat
11:50▶12:50

会場 | Room 8
マリンメッセB館 1F 展示室東



Organizer

千原 悦夫 先生

千照会・千原眼科医院 院長



Organizer

Paul Chew 先生

シンガポール国立大学 教授

近年本邦における緑内障手術の選択は変遷が大きい。

10年前には全緑内障手術の6割を占めていたトラベクトミーは多くがチューブ系の手術に置き換わり、結膜癒着が軽度のものに対してはミニチューブ (PreserFloなど) の使用が増え、結膜癒着が強いものはロングチューブが使用されるようになってきている。

国内では2012年にAGVFP群とBGIが認可され、これらのロングチューブの使用は増えてきたが、過剰濾過、結膜被嚢形成、脱出、斜視、角膜内皮障害などの問題は改善の余地があった。これらに対処するために2025年になって新しくPGIが承認された。PGIはチューブを細くしてステントを使うことによって術後低眼圧と角膜内皮障害を防ぎ、プレートの形状は十分な眼圧下降を得られるように工夫されており、国際的には使用数が増えてきている。今回この新しいインプラントに造詣の深い先生方にPGIに関するアップグレードな話を伺いたい。



Lecturer 1

Keith Barton 先生

ムーアフィールド眼科病院
教授

PAUL® Glaucoma Implant: Latest Clinical Data and Expert Insights



Lecturer 2

谷戸 正樹 先生

島根大学医学部 眼科学講座
教授

ポール緑内障インプラントの
使用経験



Lecturer 3

千原 悦夫 先生

千照会・千原眼科医院
院長

ポール緑内障インプラント (PGI) を
使用して感じるメリット

共催：第130回 日本眼科学会総会 / 株式会社 トーメーコーポレーション